北九州市立則松中学校

【学校ホームページアドレス】
www.kita9.ed.jp/norimatsu-j

ジャガイモ

校長通信　№２２９

令和４年１２月１２日

「 超える日 ～第48回文化祭⑦～ 」

校長　江　口　　満

【前号からの続き】文化祭の取組の第二周目に入り、体育館練習が始まった。まだ一度も最初から最後まで通したことはなかったが、私自身、不思議と焦りはなかった。中学生の伸び率は大きい。取り組みの最終週には、ぐっと仕上がるはずだ。

体育館練習開始と並行して、小道具や衣装が続々と練習会場に持ち込まれてきた。精巧に作られたビデオカメラ、槍、たき火、サツマイモなどなど。早速、練習に取り入れた。練習の合間に衣装係による衣装合わせも始まる。巫女の衣装の質の高さ。縄文人の衣装には、それぞれ違った文様が施されているではないか。小道具や衣装のクオリティーの高さに、キャストが奮い立たない訳がない。さらにキャストは瞬時で着替える必要があるため、衣装係が舞台裏で手伝ってくれることになった。

最終週を迎え、モザイクアートがステージでお披露目された。圧巻の作品にしばし時間が経つのも忘れて見とれた。演じているキャストには分からないだろうが、観客席から見ると、モザイクアートの中からキャストが浮き出てきた。小道具、衣装、壁画、音響、照明の各スタッフの活躍が、この演劇そのものを力いっぱい後押ししてくれた。

そして11月3日(木)、第一部は第三学年保護者を迎え、第二部は全校生徒を迎えた文化祭当日、第三学年職員と副担任の私を超える日が、ついにやって来たのである。【次号に続く】

衣装係・小道具係の皆さんと作業風景

「協力してできた文化祭」
３年１組　Ｏさん（衣装係）

衣装係のリーダーを任され、しおりの表紙のイラストもやることになり、慌てていたので上手くいくかどうか不安でした。でも衣装を作る仲間と一緒にデザインのアイディアを出し合うのが楽しくて、協力してくれる友達や先生がいるんだと思いました。なのでいろいろなことを進んでやりました。最後にみんなで協力して行事ができて、行事好きの私にとってすごく嬉しいものでした。（一部略）

「大きな達成感」
３年１組　Ｓさん（衣装係）

私が衣装の準備をするなかで、一番苦労したのはデザインを考えることです。縄文時代の模様は単純なものが多く、デザインにこだわりを持ちながらもシンプルさを保ち、長老や主人公のササに特別感を持たせることが大変でした。実際に衣装を制作し始めてからも、男子のひもが足りなくなってしまうなどハプニングもありましたが、その分完成したときの達成感は大きかったです。（一部略）

「細かな部分までの工夫」　３年２組　Ｔさん（衣装係）

私は主に、衣装の腰ひもを作りました。ひもは固く、想像よりも力が必要でした。きれいな編み目がでるように意識して、丁寧に編みました。違う網目のものを二種類作って組み合わせ、太さを変えたりと

みんなで協力して細かな部分まで工夫しました。本番は、キャストに衣装を着せる係でした。バタバタして少しハプニングもありましたが、無事に終えることができました。（一部略）

「境界線の文化祭」
３年４組　Ｈさん（衣装係）

色んな意味での境目となる文化祭。私たちがこだわり抜いて作った衣装がスポットライトを浴びた瞬間、達成感と安堵が込み上げてきた。デザインからどのように縫って形を作るか、一からすべて自分たちで考え、どうすれば着替えやすいか模索してきた。ステージでキャストがセリフを言っているとき、この劇の一部になれていることがうれしく、また少し衣装の見え方を心配しつつも、ちゃんと形になっていたことがしっかり確認できた。裏方にいても、こうしてキャストや他の係と劇を創り上げることができたのかなと感じ、もう一度こんな風に大勢で一つのものをつくってみたいと思った。（一部略）

「縁の下の力持ち」３年３組　Ｉさん（小道具係）

私は、小道具係としていくつかのものを作ったが、たき火を作ることが一番難しかった。光が小さくてどう照らせばよいかを先生に聞き、色々試しながらやっていった。私たちが作った小道具の中で一番時間をかけたから、出来上がった時の達成感はすごかった。小道具が終わってモザイクアートを手伝った。色塗りが全て終わっても貼って、体育館に飾るまであり、とても時間がかかって疲れた。だけどモザイクアートを劇本番で見た瞬間、意識が劇ではなくモザイクアートにいった。とても感動した。ダンスなどでは大声で盛り上げ、のどが痛かった。（一部略）

「心が一つになった文化祭」３年２組　Ｔさん（小道具係）

僕と伊東君は、石、サツマイモ、たき火などを作りました。一番難しかったのはたき火です。サツマイモは、リアルに作ろうと言われたので、タブレットで調べて作りましたが、あんまり納得がいく物が作れなかったけど、劇の中で活躍しててうれしかったです。劇は、本番最高の演技を見せてくれたと思います。ダンスも見どころ満載のすばらしい踊りでした。モザイクアートは、一つ一つの色に気持ちが込められていて、最高の作品に仕上がっていました。（一部略）

「最高に楽しかった文化祭」　３年３組　Ｓさん（小道具係）

私が文化祭で楽しんだときは、友だちとくだらないことをしゃべりながら小道具を作るときです。「文化祭は準備期間が一番楽しい」とよく言われますが、実際友達と冗談を言い合ったり、作った物を自分達でほめ合ったりできる６時間目を楽しみにしていました。三年生の演劇は、たくさん笑えてとても楽しめました。ダンスも、内容も、全部面白かったです。自分の作った小道具が出ている所もしっかり見れて大満足です。（一部略）

「縁の下の思考錯誤」　３年３組　Ｔさん（小道具係）

私たちは三つほど作り、その中でも特に槍が自信作です。最初は校長先生に見せるための槍を作りましたが、飾りにこだわるあまりキャストにとって使いづらいものになってしまいました。そこで次はキャストが使いやすい槍にしました。すると質素で、観客が見ても面白くない。最終的に私たちは使いやすくて誰が見ても楽しい槍を目標に作業を進めました。結果的にいいものが作れたと思います。（一部略）

「みんなで作り上げた文化祭」３年４組　Ｙさん（小道具係）

特に頑張って作ったのは、ＮＨＫのカメラです。インターネットで調べた一枚の写真だけを参考に作り上げました。何時間もかけて作ったので、完成した時の達成感や満足感をすごく感じられました。しかし劇を見てみると、カメラを持った人はステージにすら上がってなかったので、ショックだったけど、それも一つの思い出となりました。（一部略）